

年期へと移ろうとする頃の分別ある顔。肉のしまり。これは又、制作された時代の日本の姿のようにも思える。

その横に立つ二人の脇侍(きょうじ)。日光。月光の菩薩。その腰のひねりの程のよさ。一步、足を前に出してゆつたりと。これを遊び足という。全く世界的芸術品である。

仏の坐つておられる台座にも目をそそぎたい。仲々面白いものがある。台座のふちの葡萄模様などは、ベルツヤあたりから一千年もかかつて日本に伝わり、流行したものである。すべて白鳳の逸品ばかりである。

西塔のあつた心柱の礎石の穴に雨水がたまつて、その小さい水だまりに東塔の影をうかべている。そつとのぞいてみたい。又仏足石の御堂がある。

薬師寺から唐招提寺へ行く道にも、あちこちと、こわれかかった土塀を見る。秋は、これにからんだ蔦が紅葉しながら静かにゆれている。

唐招提寺

中国から難航に難航を続けて、そのために盲目になりながらも渡来した鑑真(がんにん)和上によつて創造された寺である。

山門を入つてすぐ目につくのは、金堂のエンタツスをもつた八本の大列柱。それが支えている屋根の勾配。この重厚さは全く、男性的奈良の時代のものである。

中にはどつしりと大きい仏様、この重量感。全く奈良の盛時を偲ばせるに十分な姿である。これは東大寺の仏様と同じ、るしやな仏である。その横には千手(せんじゆ)観音が千本の手を少しも乱さないで大きく立つている。この金堂は奈良時代そのままのものである。

おほてらのまるきはしらのつきかげを

つちにふみつつものをこそおもへ

会津八一

講堂にも色々な仏がならんでいる。その中に、首もなく、手もなく、足もない仏がいる。衣紋のひだの流れの美しさ。程よく肥つたからだ。触れればぬくもりを、手に感じるような肌のしまり。いい。実にいい。しかしおいしいことに、今はあまり明かるい所に立たされている。これは、ほのかな光の中で見るにふさわしい。

野に出ると、民家の屋根に、うだつをあげた造りの家をみいだす。これも、またいい。大和は国のまほろばである。

3月10日 (日曜日)

(ホテル)=ドリームランド (9.00~11.00)	11.10	東大寺……南大門……
大仏殿……三月堂……若草山……春日大社(神仙境)	昼食 (13.00~13.50)……	
宇治平等院 (14.30~15.10)	京都	
銀閣寺 (16.00~16.50)	京都旅館 (17.10)	

【食事】 昼食、春日大社下、神仙境

【宿泊】 京都 加茂川荘、京都市東山区三条大橋東畔下ル (56)3549. 4528

(注意事項)

※ 開館の9.00~11.00までドリームランドの中で遊んでください。但し、集合時間は厳守すること、も

し遅れると後の見学箇所が見れなくなります

- ※ バスは曜日と同じ京阪バスです
- ※ 旅館に着いて食事が終わったら7時から~9.00時まで外出を認めます 但し、決して小さな路地には入らないよう大通りに限ります
- ※ かならずグループで行動すること

東大寺

でかい仏、るしやな仏。ただそれだけで足る。ほかに言いようがない。たびたびの兵火にかかり、天平の姿は、台座に少しばかり残っているだけ。しかしこの大仏殿の前の銅の燈籠は見のがしてはならない。すかし彫りの八面の中に可愛い天人の姿がある。この中に盗まれた面がある。その後に模造品がはめ込んであるが、それがどれかを見分ける程に、よく見てもらいたいが。

南大門の木組は荘大。鎌倉期のもの。両の仁王は、この期の仏師運慶と快慶の作。

春日神社

境内にある石燈籠の列。本殿回廊の釣り燈籠。先ず目をうばう。

本殿は春日造りと言って切妻に向拝がついている。これがその特徴である。

三月堂

この御堂は奈良時代のものである。しかしそれに鎌倉時代増築している。割に調和よく出来ている。

中の本尊はふぐうけんじやく菩薩。奈良のポリユウムである。三つ目の様相、八本の手。冠には数知れぬ宝石がちりばめたとの事。その前の日光、月光菩薩。奈良の文化の高さを物語る逸品。塑像である。

平等院

宇治川の清い流れ、かつて、梶原景時と佐々木高綱とがこの流れを早く乗りきろうと先陣あらそいをした所。流れは今も早い。琵琶湖からの水である

この清流を前にして平等院がある。鳳凰が羽をひろげたとされる鳳凰堂。そのいらかの両端に、一對の鳳凰の飾りがある。美しいスロープの屋根。前の池水に影をおとしている。平安の美である。

木堂をのぞくと、奈良のポリユウムはとれて、すつきりとした阿弥陀仏が安置してある、女性的な美を好む平安人には、あの重量感のふとりじしにはたえられなかつたのであろう。ここでも御堂の作りと内の佛像の感じは同じである。すでに御承知の定朝の作である。御堂の内は、内陣、外陣ともに、平安の華麗さがさびつきながらも残っていて、昔を十分偲ばせるにたる。

銀閣寺(慈照寺)

十五世紀、足利義政の造営。まずこの寺の山門を入つてからの参道の、石垣とその上に組む竹垣と椿のかもす構成美をみおとしたくない。

閑寂な趣きの廻遊式庭園である。庭は上下二段にわかれている。しかし、今は上段はない。下は錦鏡池をもつた庭と朝からなつている。池中にかけて二つの石橋。一つは一枚石で、他は中にさよえをもつ二枚の石でつくり、変化をもたせている。(銀沙灘)(ぎんさだん)と向月台とからなるただ白砂だけの枯山水(かれせんずい)、は珍しいという

北山文化のはでな金閣に対して、ここ東山文化の銀閣はじみであり、池に面して静かに木立の中になつておる。

木堂の東に接した東求堂は、義政の持仏堂である。